

研修から見える保健体育科の授業改善の視点

1 はじめに

保健体育科では、授業の充実に向けて実践的な内容を取り入れ、講座を運営しています。今年度講座で行った、実験や実習を取り入れた授業づくりの一例（保健）、授業の振り返りのための授業分析（体育）の一部を紹介し、それぞれの研修の感想から見えてきた授業改善の視点について考えてみます。

2 研修の内容と感想

(1) 小学校初任者研修体育科講座（毎日の生活と健康に関する内容）

書籍やWeb上には、寒天培地を使った細菌培養実験についての情報がたくさんあります。しかし、予備実験をしようまくいかないことが多々あります。今年度は、理科担当指導主事の協力を得て予備実験を重ねました。簡単に準備ができて、確実に成功する寒天培地の作り方を紹介します。授業に臨むに当たっては、予備実験を行ってからどの場面で用いるかなど検討した上で、授業に生かしてください。

① 実験の準備物

ア 器具等

- ・ 消毒済みのシャーレ（使い捨てのシャーレ、又は、アルコールを含ませた脱脂綿で内側を丁寧にふいて消毒したシャーレ）
- ・ 電子レンジ・ビーカー・ガラス棒・軍手

イ 寒天培地の材料

- ・ 水100cc・寒天(粉末でも棒状でも可)2g・砂糖2g・スキムミルク1g

② 手順（◆簡単な寒天培地づくり）

ア ビーカーに水100cc・寒天2g・さとう2g・スキムミルク1gを入れる。

イ アをガラス棒で混ぜる。

ウ 電子レンジで加熱する。（30秒程度）

エ ウをガラス棒で混ぜる。

オ エを電子レンジで加熱する。（30秒から1分程度）

カ ガラス棒でかき混ぜて、寒天などが溶けていることを確認できたら、シャーレに適量を注ぐ。

一度に長時間加熱すると沸騰してあふれたり、スキムミルクがだまになったりします。注意が必要です。

③ 留意事項

ア シャーレを置く場所は、一定の温度（30～35度）になっていて、直接日光の当たらない室内を選ぶ。

イ 水滴が落ちないように、シャーレは逆さまにしておく。

ウ 使用した寒天培地は、「30分以上煮沸滅菌・消毒」した上で、各自治体の分別方法で廃棄する。



○研修者の感想等から

- ・ 教科書には、寒天培地に細菌を培養した実験結果の写真が掲載されていて、とてもおもしろいと思っていた。今回教えてもらったやり方でやれば、その実験を子ども達と簡単に行えそうだったと思った。手洗いチェックのやり方も自分で体験できてよかった。
- ・ 実習をしてみて「こんな風にやれば子どもたちは理解しやすいだろう」「ここはこうしたらいいだろう」と教授のためのアイデアを考えられるような気がしてきました。
～ 中省略 ～ 実習を取り入れ、教えるべき内容をしっかり押さえられるよう工夫したいと思いました。

(2) 中・高等学校各種研修保健体育講座（視点を明らかにして授業を分析する内容）

授業参観や授業研究で自分の授業を振り返るとき、これまでは専門家としての直観的判断や思いに頼ることが多かったのではないかと思います。講座では、平均的な活動を一人の生徒をDVテープに録画し、運動量に着目して、運動時間を客観的なデータとして分析しました。

今年度の研修者30名による事前アンケートの結果、これまでの授業を振り返って、平均的な生徒が50分の授業で運動していたと予想する時間(イメージ)の平均は、「24分58秒」でした。これに対して、研修者が持参したDVテープの実際の運動時間を50分の授業に置き換えて平均した時間は、「16分07秒」でした。

○研修者の感想等から

- ・ 運動量を多くとった授業であると考えていたが、実際には主運動時間が短く驚いた。今後は、生徒の運動量・認知・満足度が得られる授業を目指したい。また、本時のめあてをどこに置くのかという重要性もこのデータをきっかけに考えることができた。
(中経Ⅰ)
- ・ 運動量を確保すること。そのためには説明や指示を効率的に行うために、学習ノートの活用やIT活用が今後必要であると考えている。(高経Ⅱ)
- ・ 初めて、生徒の運動量を時間でとらえることができた。自分ではもっと多くの時間活動させていると思ったが、少ないことがわかった。今後は、運動の量・質を工夫するとともに説明や指示を簡潔に行えるよう努力したい。(中経Ⅱ)

3 おわりに

保健においても体育においても、先生方が教材研究を十分に行い授業に臨むことが大切です。

保健では、児童生徒が自らの課題を解決していくような学習をさせるための一つとして、実験や実習が挙げられます。感想にもありますが、「面白そうだ」「簡単にやれそうだ」という先生方の経験が、保健授業の改善の糸口になるのではないのでしょうか。このほかにも簡単に準備できる実験・実習素材がたくさんあります。教科書や資料で簡単に説明できる内容でも実験や実習を取り入れることによって、児童生徒の興味・関心が一層高まっていきます。

体育でも先生方は授業を改善していこうと日々努力しています。授業分析の際には、運動量に着目してみました。感想にも見られますが、単に「運動量を多くしよう」ではなく、どう改善したらという「具体的な自己課題」を挙げています。授業の質的向上を目指すためには、量的なデータを持つことも大切な着眼点の一つと言えます。